

令和元年度第1回金沢市廃棄物総合対策審議会 議事録

■日 時 令和元年5月31日（金） 10:00～11:30

■場 所 金沢市西部環境エネルギーセンター「環境学習室」

■出席者 別紙のとおり

■内 容 以下のとおり

事務局 本日は、大変お忙しい中お集まりいただき、厚くお礼申し上げます。
定刻となったので、「令和元年度第1回金沢市廃棄物総合対策審議会」を開催する。
なお、本日の終了時刻は午前11時30分を予定している。
開催にあたりまして、佐久間環境局長からご挨拶申し上げます。

環境局長 (あいさつ)

事務局

- ・出席委員の紹介
- ・欠席委員の報告
- ・出席委員数は11名であり定足数を満たしていることを報告
- ・池本委員を会長に選任
- ・池本会長が欠席のため、進行代理を三国委員に依頼

会長代理 本日は急遽議事を進行することになった。
委員の皆様にはご協力いただきたいと思います。
本日の議題は1件、議題「金沢市ごみ処理基本計画（第6期）の策定について」事務局から説明をお願いします。

環境政策課長 (資料1及び2について説明)

会長代理 この議題について、意見や質問はないか。

委員 5年間の実績では、思ったほど減っていないと感じる。目標期限の2024年まで残り5年になってこのペースでは間に合わないのでは。
昨年指定ごみ袋制度が始まって、私個人では、コンポストや雑紙回収により、結果的に燃やすごみが10分の1に減った。

燃やすごみの、家庭系と事業系の比率は分からないが、仮に4割として、すぐにごみが減り目標を達成できるような革新的なプログラムを導入する必要があるのでは。

また、ごみというものには、総量と分別率の観点がある。分別率を向上させれば、総量は変わらないが資源化率が上がる。分別率を高めるためには、分別リーダーを育成するという方法がある。

また、ごみ総量を減らすためには、余計なものを買わずごみを減らせればいいのもあるが、ごみの中の水分量を減らすしかないと思う。

会長代理

今の意見は、資料に平成29年度までの数値しかなく、指定ごみ袋収集制度以降どうなっているかが見えないためではないか。

平成30年度の参考数値を教えてください。

環境局長

平成30年度の数値は現在とりまとめ中であるが、指定ごみ袋制度前の平成29年2月から10月では燃やすごみが約10万2000トンであったものが、実施後の平成30年2月から10月では約9万トンに減少したデータもある。そのような数値も含めるとおよそ20%の減量となっている。

ただ、ごみ処理基本計画の目標については、あくまで年度単位の数値のため、平成30年度実績の計で次第、委員の皆様にご報告する。

委員

先ほどおっしゃられたが、本当に生ごみは重たい。

やはり水分量が多いので、それをいかに減らすかが重要だと思う。

委員

学生寮で、市の職員がごみの捨て方をレクチャーしてくれた。

そのような、草の根的活動が大切だと感じている。

マンション住まいで、町会に入っていない人も増えていると思うが、そのような市民への周知はどうなっているのか。

リサイクル推進課長

基本的に町会への説明会を主としているが、学生が多い地域については不動産の管理会社を通じてチラシの配布、あるいはわかりやすい看板を設置するという形で説明している。

また、先ほど委員がおっしゃられた通り、学生に対して直接説明する機会も大切だと考えており、市内の各大学で、入学式後のオリエンテーションでの説明や、留学生へは通訳を交えた説明を実施していく。

委員

先ほど、ごみの量を10分の1に減らせたとのことだが、具体的な方法を教えてください。

それが誰にでもできることなら活用可能なのではないか。

委員

ごみを減らす方法は徹底分別するところで、まず、丸められた紙や弁当などのプラスチック容器を全部分別する。

あとは紙パックのうち、中がアルミコーティングされているものはリサイクルできないが、そのようなものはベルマークがついているのでベルマークとして分別する。

インクカートリッジ等もベルマークで、全部分別して出すと 40 リットルが 5 リットルになる。

これだと、総量は減らないが、分別率は 90% くらいになるかと。

委員

そのようなことは誰もしていないのか。

委員

どこも無造作に捨てられている。

委員の方は関心があるので実行していると思うが、そうでない人達はたかが 45 円という感覚で 45 リットル袋にそのまま入れて捨てている。

委員

ごみ袋が重たいというのは、おそらく指定ごみ袋制度になって、45 リットルの袋に目いっぱい詰め込んでいることも理由だと思う。

そのような中で、ごみ量はこの 1 年本当に減っていると思う。

市民の方も努力はしていると感じられる。

ところが、容器包装プラスチックの収集が第 5 週に始まった中で、中国やマレーシアがプラスチックを受け入れない、アメリカでも埋め立てているとのことで、資源化率を上げなければならないことと相反しているのはどういうことなのか。

市として今後どうしていくか、具体的に決まればお知らせ願いたい。

環境局長

家庭系容器包装プラスチックは、4 月に月に 2 回、5 月も昨日と今日回収を行い、市内全てで 5 週目回収を実施した。

私もステーションを巡回したが、思ったより量があった。

これらの容器包装プラスチックは、一切燃やすことなく適切に再資源化のルートへ引き渡ししている。

これは市民一人ひとりが、きれいに分別しているおかげであり、そのような気持ちを削ぐことのないよう、これからはしっかりと資源回収をしていく。

リサイクル推進課長

市内で集められたプラスチックは、主に容器包装プラスチックとペ

ットボトルの2種類になる。

容器包装プラスチックは、日本容器包装リサイクル協会の入札により、富山県にある富山環境整備に全量引き渡している。

そこで、運送用のパレットに変わっている。

その他防水シートやスーツケースの内装材等の製品にはほぼ100%リサイクルされていることを確認している。

また、ペットボトルについては、同じく日本容器包装リサイクル協会の入札によって、白山市にある北陸リサイクルセンターに引き渡している。

そこで、主に卵パックの材料や、ユニフォームなどに変わっていると聞いている。

環境局長

今ほど具体的な資源化方法について説明があったが、全国的には産業廃棄物のプラスチックが主に都心部の方で滞留しており、輸出の規制が厳しくなったことを踏まえ、国から要請が来ている。

ただ、まだ要請がきたばかりで、具体的にどれだけひっ迫しているか数字も出ていないため、しばらくは動向を注視しなければならないと考えている。

委員

容器包装プラスチックの5週目回収について、市民としては助かっている。

ただ、町会のごみ担当からすると、月2回の資源回収と同じように他の資源も持ち込まれることがある。

周知には、時間がかかるかもしれないが引き続きよろしく願います。

今、説明を聞いて少し安心したが、全国紙などの報道によると、プラスチックを燃やすよう環境省が指示したとニュースになっている。

分別したものが燃やされると、せっかく育ったリサイクル意識が損なわれる懸念がある。

市民が努力したおかげで、資源化率が高いということも、ぜひ周知してほしい。

また、スーパーでの容器包装プラスチックの回収は買い物に行く時にもっていけば便利で大変に助かっている。

かなりの市民がスーパーに持ち込んでいると思う。

そこを計算に含めれば、資源化率はもっと上がるのではないか。

環境局長

ストアーくるステーション等で市が支援している分は集計されている。

ただ、各スーパーで独自に実施している分は把握できない。

委員 家庭系の燃やすごみと埋立ごみは指定ごみ袋制度を実施し、市民のみなさんの協力で減少しているが、事業系は新幹線金沢開業以来ということもあり、あまり減少していないが何か対策はあるか。

環境指導課長 今回の発言の通り、事業系は新幹線の開業以降、経済状態がいいということでごみ量自体はそれほど減っていない。

ただ、大規模事業所に提出を義務付けている減量化計画書を見ると、古紙の資源化率が少しずつ上がっている。

そういったところから、分別の徹底や資源化が少しずつ進んでいる。

ただ古紙の中でも、段ボールは資源化率が非常に高いが、雑がみ等はまだまだ低い状況なので、その点と生ごみの対策を行って行きたい。

委員 ペットボトルなどが何にリサイクルされているのか、具体的に知ることでも自分も分別意欲が増したので、そこをもっと周知したらよいのでは。

委員 指定ごみ袋制度開始後、私の地域では最初のごみ量が少なかったが、最近ではとても増えている。

また、高齢者や子供用のおむつの量が多い。

環境局長 指定ごみ袋制度開始は2月の大雪と時期が被ったので、非常にごみが少ない・出ていないイメージがある。

ただ、ごみ量は季節によって変動があり、季節ごとに見ると増えた、減ったというごみ量があまり減っていないように見えるが、年間を通してみると2割程度の減量がなされている。

委員 指定ごみ袋制度開始から2年目を迎えるが、振り返って一番の難点が高齢化が進んでいることと、インターネットで取り寄せる人が多くダンボールの比率が高いこと。

ダンボールは非常にかさばり、マンション住まいだと置き場所がなく、ダンボールは毎週でも回収してほしいという住民が多い。

逆に、一般住宅の人は毎週ごみ当番をしたくないので、2週間に1回で良いという人が多い。

また、先ほどの第5週目収集の話になるが、別の町会では総会を開いた後に制度の周知があった。

ごみ当番は総会の時期に1年分を決めており、第5週は誰が当番をするのかという話になり、協力しなくなったらごみ出しをしないこととした。

それでも、市の方は収集していただけるので感謝している。

環境局長

容器包装プラスチックの5週目回収は、本審議会を含め様々な意見を聞いていたため、周知までに時間を要してしまいご迷惑をおかけした。

ダンボールは、通販の梱包として出る頻度が多いため、どのような資源回収をすれば市民が出しやすいのか研究して、第6期計画の中で広くご意見を聞きながら対策を決めて参りたい。

委員

3年ほど前に、市長を団長として信州へ町会で視察に行ったが、上田市では有料化後3年ほどは減るが、そこから徐々に増加していったとのことであり、3年目が重要と上田市の市長も言われていた。

来年から、上昇に転じるのではないかと危惧している。

増加を防止するような施策を実施して欲しい。

委員

違反ごみは持って帰らずにその場に置いて欲しいと言われる。

町会でも置いておくよう話をするが、私どもの町会は街中なので決まったごみステーションがない。

自宅の前や空き屋の前に置かせてもらっており、ダンボールなどを置いておくと、空き屋の大家さんが見に来て、以前に放火されたことがあり、置いたままだと困ると言われる。

郊外の決まったごみ置き場や、鉄製のかごを置いたらいいが、街中では1日でも置いておくと、場所を借りしている方に申し訳ない。

会長代理

意見を聞いていると、市民の協力をどうやって得るかが重要と強く思う。

市の職員が説明会などで努力されているのには頭が下がる。

それから、地域の特性や事情があり、市民が市役所と協力しないとごみの減少を維持できない。

そこで、お願いがあるが、毎年のごみ出しパンフレットと同じように、市民向のごみ量の年次報告書を出して欲しい。

要は、どれだけの成果が出たかを周知すれば、市民もやる気になる。

ごみのことは、特に市民の協力がないと、市役所が苦勞して空回りするような状態が続くことになる。

第6期計画では、市民にも責任あるので一緒にやろうというスタンスで、市民フォーラムなどで多くの人アイデアや意見を聞いて計画をつくり、計画を立てた後のフォローアップをしっかりと検討して欲しい。

市民にも責任があるよりは、市民の協力で減量化・資源化が進んだ

成果を共有することが大事である。

委員

先ほど、リサイクルされてどんな製品になっているのか、わかるとモチベーションが上がるとの発言があったが、以前金沢市のチャレンジ事業で「もったいない辞典」を作った。

市民の方と一緒に施設を見学し、資源は何にリサイクルされるのか、空き缶は潰さず出し、ペットボトルは潰して出すのではなぜなのか等をまとめた冊子を出した。

ぜひ、そのようなものを更新して情報を出しやすくして欲しい。

会長代理

全てを市役所がする必要はなく、市民グループができることは任せ等手法で周知していくか考えた方がよい。

例えば、道路に自転車専用のマークや警察や学校の先生の街頭指導などにより、10年で自転車の関連事故が65%に減った。

これは施策の協働による成果だと思う。

同じように、町会ごとに周知を行いごみ量が減れば、新たな町会から希望者が出てくると思う。

委員

すでに実施していると思うが、引っ越し等で金沢市に転入してきた方にごみ分別の冊子をあげて欲しい。

リサイクル推進課長

転入時の住民票移動手続きの際、市民課や各市民センターにおいて、ごみの出し方の冊子を渡すようにしている。

学生については、情報元はスマートホンやアプリということがわかったため、入学時にごみの分け方出し方のアプリを周知している。

さらに、ごみを出す場所と出す日について、不動産屋からもらったチラシで卒業まで過ごす学生が多かったため、そのチラシを市の方で監修して、わかりやすく記載したものを今年作成し、学生の多いアパートの管理人に配布している。

委員

外国人が増加しているなかで、彼らは当事者意識が薄いと思われるが、中国人やベトナム人が多く言語も多岐にわたっている。

英語を分からない人にどのように周知するか考える必要があるのではないか。

リサイクル推進課長

外国人について、留学生や教員の場合は、本人が日本語や英語が話せる方が多い。

ただ、家族を連れて来ている場合、お子さんや、配偶者は日本語を使いたがらない方が多い。

市営住宅に入居しているそのような方の家族を集会所などに集め、通訳を通してごみの出し方の説明をすることを昨年からはじめており、6月にも大桑の市営住宅でごみの出し方の説明を行う。

また、ごみ出しのパンフレットについても、4か国語を併記したものを作成している。

委員 今の質問は居住者に限ったものだが、よく簡易宿所について紙面に出ている。

簡易宿泊所にはオペレーションする会社があり、そういった会社にはごみの観点からなにか行政指導しているのか。

環境指導課長 指導ではないが、保健所で簡易宿所の営業許可を得るときに必ずごみや、水質などの公害関連について適正に管理するよう伝えている。

また、苦情があった場合は現場の状況を確認して違反があれば指導を行っているが、個別訪問し指導することはしていない。

委員 簡易宿所で問題になるのはホテルと違い、家族で1週間泊まることを想定していることが多い。

ごみはオペレーション会社が管理する前提で成り立っているが、たばこの吸い殻がたくさん落ちており、簡易宿泊所でもコンビニと同様にごみ箱を設置するなどの指導はできないか。

行政のごみ問題として、保健所ばかりの対応ではだめだと思う。

環境局長 現時点ではまだ制度がない。

今のご意見は今後の大事な課題であり、保健所等の関係各所と協議して参りたい。

会長代理 ごみの指導というと上から目線になりおもしろくないので、楽しくなるような仕事にしてもらいたい。

ごみの分別が金沢市ためになっている、金沢市を盛り上げていくという観点で施策を実施していくことが結果的にごみの減量にもつながっていくと思う。

誰の責任ということではなく、それこそ協働だと思う。

第6期のごみ処理基本計画では、数値だけではなく取り組みの姿勢を考えて議論して欲しい。

委員 5年、10年単位で将来を考えると、指定ごみ袋の値上げを考える必要性がでてきたとき、ごみ処理費用の何パーセントを市民は負担しているのか説明する必要がある。

金沢市のごみ処理の報告書を見ると、実際のごみ処理プロセスは難しいが、1キロまたは1リットルにいくら費用がかかり、そのうち何パーセントを市民が負担しているのかということを説明していかないと、値上げすることになったとき、例えば負担率が5パーセントでは少ないので、10パーセントになるかもしれないと布石を打つ必要があると思う。

また、金沢市も人口が減少している中で、少子高齢化により内灘町で行われているような個別収集を行うことになった場合に、これ以上の負担を強いるべきなのか議論をするためにも負担率は把握する必要があると思う。

環境局長

指定ごみ袋制度の収支については、およそ年間6億円の収入があり、そのうち指定ごみ袋の製造や取り扱い店舗に委託する諸経費が約2億円、残りの約4億円はすべて地域コミュニティ活性化基金に振り込み、そこから地域の方々の活動に役立てていただく形で還元している。

直接、指定ごみ袋の収入をごみ処理費用に充てていないため、一概に負担率を把握できず、それは他の自治体とは違うかもしれない。

金沢市では、市民の皆様からいただいた大切な資金は、地域コミュニティの活性化に使い、市民に還元するのが大原則としている。

ごみ処理費用については、年間で約40数億円掛かっており、これはすべて税金や交付金、市債が充てられており、ごみが減れば処理経費が削減される。

このことや、先ほどからの説明内容を繰り返し、周知することが大事であり、その方法を第6期計画の中で決めてまいりたい。

会長代理

お金の使い道は気にする市民も多いので、このことを分かりやすくデータ化して説明した方が良い。

はっきり説明した方がよけいな誤解を生まない。

委員

ごみ処理費用に指定ごみ袋の収入を使わないことが意外であった。

ただ、収入の6億円は処理費用以外に使われているが、集まった金額としては、40数億円のうち6億円ということであり、なんとなく制度の目的と基金の使用先がちぐはぐな気がする。

会長代理

指定ごみ袋制度の目的は、お金を集める事ではなく、将来のごみを減らして、40数億円の処理費用を減らすということではないか。

委員

そのような説明であれば納得がいく。

先ほどダンボールの話があったが、場所によってはびんの日に集めており、非常に助かっている。

あれは市全体ではなく試験的に一部だけ実施していると伺った記憶があるがどうなのか。

リサイクル推進課長

ダンボールの回収は、他の古紙や新聞などと同じように集団回収で取り組んできた。

集団回収は小学校のPTAや地域の方で行ってきたが、最近では週末の過ごし方が多様化していることや、子どもの数が減っていることにより、実施回数が非常に少なくなっている。

そのような中、地域のごみステーションを活用した定期的な集団回収を実施すれば、高齢者などのスーパーに持ち込むことも大変な方々の助けになるため、町会や町会連合会の方々にごみステーションを活用した取り組みを進めていた。

モデル事業ではなく、現在26の町会連合会で取り組んでいただいております、10校下から相談を受けている。

地域の中で話がまとまれば定期回収が可能であり、引き続き周知をしてみたい。

会長代理

資料1の方針3にある、適正で効率なごみ処理体制の施策⑧で、要援護者のごみ出しサポートとあるが、何件実施しているのか。

リサイクル推進課長

現在90世帯ほどが利用している。

委員

雑がみ回収促進袋について、利用している町会の人は何回ももらっているが、見たことがない方もいる。

町会によって、周知に差が大きいため、雑がみ回収袋での回収が習慣化されるよう活用してほしい。

また、雑がみを簡単に出せる場所が必要であり、その点もセットで進めてほしい。

また、埋立ごみとして布団や家具、陶器、お茶碗類が多いと実感しているが、岐阜県ではデパートでお茶碗を買った時に下取りし、潰して新しい粘土に混ぜて作ったお茶碗を学校給食で優先的に使用していると聞いた。

そのような取り組みや、羽毛布団は洗い替えすれば半永久的に使えるので、再利用するしくみを市役所と事業者のグループで実験していくことができるのではと思う。

会長代理

近所の三崎ストアでも資源回収しているが、市役所としては協力

費や支援金などを支払っているのか。

リサイクル推進課長 金沢市がびんの回収をお願いしている店舗については、市で収集しており、必要な器材についても設置している。
ただ、びんを回収していない店舗については、店舗独自で実施している回収のため市は関与していない。
また、協力金等は支払っていない。

委員 スーパーや自治体が連携するしくみの強化が必要ではないか。
買い物をした後、その場で包装などを捨てて帰る人が増えている。
市も把握できないごみが増えており、店舗と情報を連携するしくみを作っていないと市内で動いているごみの量がはっきりわからなくなる。

会長代理 実際ドイツではスーパーで買った例えばバターを、外側の紙を外して中身だけ持って行くのがある。
日本では、買った物をまたスーパーに持って行くようなものだ。
現在、そのように店舗で包装を捨てる人は増えているのか。

委員 そのような人は多くなったが、この問題は製造元メーカーとの関わりもあり、店舗だけでは対応できない。

会長代理 世の中が変わり、複雑で難しいことが増えたが、それも踏まえてどのような方法がいいかこの機会に考えればいい。
金沢市は指定ごみ袋制度という大目標を達成したので、次はその効果をどう維持していくかが問題となる。

委員 東部環境エネルギーセンターは、指定ごみ袋制度の説明で、もう少し小型の施設にできるとのことであったが、他の自治体と広域で活用することは考えていないのか。

環境局長 ごみ処理体制は、全国的には広域化の方向性がある。
ただ、市としては現在のところ考えていない。
理由としては、埋立場も東西の環境エネルギーセンターも、市民のご理解があって円滑に運営されている。
それをさらに他の自治体のごみもとなると様々な問題が出てくると思われる。

委員 広域化すれば、他の自治体からの収集もあり負担が減るのでは、今

後人口は減少していくので、広域化に見直しした方がいい面もある。

委員 施策の成果を具体的に知る機会があれば、取り組み意欲が増すとの発言で、周知方法について考えていたが、学生や若者はチラシやテレビ・CMを見ないが、ユーチューブやSNS・ツイッター、学校での周知であれば知る機会になると思う。

会長代理 様々な意見があり、場合によっては環境局だけではできないこともあるが、市民や事業者との協働が一番大事なことと思いで、多くの意見を踏まえてごみ処理基本計画の検討し、より良いものを作っていたらいいと思う。
それでは進行を事務局にお返しする。

事務局 本日は委員の皆様には長時間にわたり、ご審議いただきお礼申し上げます。
以上をもって、令和元年度第1回廃棄物総合対策審議会を終了する。

(別 紙)

令和元年度第1回廃棄物総合対策審議会出席者(順不同、敬称略)

青海	万里子	(公募委員)
奥井	めぐみ	(金沢学院大学経営情報学部経営情報学科教授)
岡崎	愛弓	(「金沢のごみを考える」学生連絡会 同会代表 秋田 悠介委員の代理出席)
金岡	幸子	(金沢市一般廃棄物事業協同組合理事長)
笹井	錬造	(金沢市町会連合会副会長 金沢市町会連合会会長 西野 茂委員の代理出席)
須崎	秀人	(公募委員)
出村	昌史	(金沢大学医薬保健研究域医学系准教授)
三国	千秋	(北陸大学名誉教授)
松川	治彦	(石川県スーパーマーケット連絡協議会代表幹事)
安嶋	弘子	(金沢市校下婦人会連絡協議会副会長 金沢市校下婦人会連絡協議会会長 能木場 由紀子委員の代理出席)
道下	博之	(石川県生活環境部廃棄物対策課長 石川県生活環境部長 脇田委員の代理出席)

※欠席者

池本	良子	(金沢大学理工研究域地球社会基盤学系 教授)
北川	博之	(金沢農業振興協議会会長)
林	健治	(金沢商工会議所常務理事)

(事務局出席者)

佐久間	悟	(金沢市環境局長)
山口	俊彦	(金沢市環境局担当部長兼環境政策課長)
堀場	喜一郎	(金沢市環境局リサイクル推進課長)
勝田	平俊	(金沢市環境局施設管理課長)
永井	俊宏	(金沢市環境局環境指導課長)
田村	友美	(金沢市環境局リサイクル推進課長補佐 兼家庭ごみ減量化推進室長)
桜木	和也	(金沢市環境局環境政策課企画庶務係長)
田淵	晃由	(金沢市環境局リサイクル推進課庶務係長)
宮村	浩一	(金沢市環境局リサイクル推進課担当課長補佐)
木谷	聖	(金沢市環境局環境政策課技師)